

館長だより第33号（2022・10）

秋期特別展「紀氏、大地を開く一宮井用水と耕地開発」の開催について

令和4年度夏期企画展「くだものの民具」は、9月4日に終了いたしました。和歌山県を代表する特産品ウメ、カキ、ミカンに関する、その栽培、収穫、出荷などにまつわる道具や資料・生産技術を通じての紹介でしたが、多くの方々に御来館いただきお楽しみいただけたものと存じます。

新型コロナ禍の中、お越しいただいた皆様方には感染防止対策にご協力をいただき、ありがとうございました。

さて、10月1日（土）から12月4日（日）の予定で、秋期特別展「紀氏、大地を開く一宮井用水と耕地開発」を開催いたしております。

【展示の趣旨】

紀氏は岩橋千塚を築き、『日本書紀』・『古事記』では、朝鮮半島で活躍したことが記される古代豪族です。

古墳時代以降には紀国造家として国を治め、律令期には名草大領を兼ねます。一方で、紀伊国一宮として祭祀の中心的な役割を占め日前・国縣神宮を奉斎してきました。中世には和歌山平野一円を神領として支配し、羽柴秀吉の紀州攻めを経て、その系譜は現代にもつながります。

紀氏の勢力基盤は、穀倉地帯である和歌山平野であり、「宮井用水」とその原型である「名草溝」による灌漑水路により、古墳時代から中世にかけて耕地開発を行いました。総延長28kmにも及ぶ大規模灌漑水路である宮井用水は、現在も和歌山平野を潤しており、紀氏がその礎を築いたといえます。宮井用水は、古墳時代以降に延伸や取水口の変化が度々あり、それに伴って地域の耕地開発が行われました。

今回の展示では、考古資料と文献資料の展示を通じて、古墳時代から中世、そして現代まで続く紀氏と宮井用水について探ります。また近畿地方各地の発掘調査成果とともに耕地開発の進展について紹介しております。

【展示構成】

プロローグ：田を耕し、水を引く

弥生時代の始まりによって、その遺跡からは自然流路から水を導く水路や堰が見つかり、水稻耕作と共にすでに完成された灌漑技術が伝わったと考えられます。人々は原野を開き、水路を掘り、水田を耕すことで大地を開き、農業生産力を高めた。大地を開く営みが、ここから始まりました。

【主な展示品】弥生土器、磨製石斧、石包丁（和歌山市神前遺跡出土、和歌山県

教育委員会)

第1部：紀氏、大地を開く

第1章：紀氏の源流

紀氏は、『日本書紀』『古事記』によると、朝鮮半島で活躍したことが記録される古代豪族で、古墳時代以降には紀国造家として国を治め、律令期には名草大領を兼ねます。一方で、紀伊国一宮として祭祀の中心的な役割を占め、前・国懸神宮を奉斎してきました。戦国時代の戦乱を経て現代にもつながる系譜を持っています。

【主な展示品】紀伊国造印（個人蔵）、紀伊国造次第（個人蔵）、金製勾玉（車駕之古址古墳出土、和歌山県指定文化財）

第2章：名草溝の源流と紀国造家

第1節：自然との闘いとマツリ

弥生時代の終わりごろの和歌山平野では小高い場所に集落、低い場所に水田を築きました。平時には干上がったため、荒ぶる神々に対して人々は水の祭祀を行い収めるとともに護岸などを行いました。この段階では、人々はいまだ自然を制御できずにいました。

【主な展示品】木製祭祀具（井辺遺跡出土、和歌山市・和歌山県教育委員会）、滑石製品、鳥形土製品（神前遺跡、和歌山県教育委員会）

第2節：大水路開削のはじまり

古墳時代の初め、和歌山平野の北部域では幅6m以上の人工的な大溝が掘削されました。宮井用水の原型となる名草溝の源流は、古墳時代にさかのぼることが発掘調査で明らかとなりました。古墳時代を通じて和歌山平野を流れる小河川は埋没し、それとともに大水路は拡大したとみられます。

【主な展示品】木製農耕具、四脚付盤、腰掛、屋根型木製品、木製刀装具、土師器（鳴神Ⅱ遺跡、和歌山県教育委員会）

第3節：古代国家の成立と紀国造家

中央集権的な古代国家の形成過程で各地の豪族らの影響力は低下しました。その一つが屯倉の設置であり、紀伊においても河辺屯倉、海部屯倉、経淵屯倉などの設置があります。しかし紀氏の勢力は衰えず名草大領を兼ね、日前・国懸神宮を奉斎し、紀伊一之宮として祭祀の中心的な役割を占めている。

【主な展示品】和同開珎（太田・黒田遺跡出土・和歌山市指定文化財）、円面硯、刻書土器（且来VI遺跡、海南市教育委員会）

第3章：大開発の時代と宮井用水の成立

第1節：条里の施工と土地開発—名草溝・綾井堰—

律令制下では、耕地の管理のため条里制と呼ばれる碁盤の目状の区画が施工されました。当初は、地の私有、売買が許可されていませんでしたが、三世一身法、墾田永年私財法以降、土地の私有、売買が認められるようになりました。とくに8世紀後半から9世紀には土地の売買を示す文書の存在とともに、発掘調査の成果からも水路の延伸や条里水田の施工が認められ、各地で水での開発が盛んになりました。

【主な展示品】緑釉陶器、墨書土器（鳴神IV遺跡、和歌山県教育委員会）

第2節：荒野の大開発の時代—宮井用水の成立と日前宮領の形成—

平安時代の終わりころ、和田川流域では紀氏や日前宮の神人を中心に郡司や国府に勤めた役人などに支えながら、塩堤を築き塩入荒野を開く大規模な開発により日前宮の神領が形成されました。以降、日前宮周辺の領地を拡大し、一円の所領を形成する「宮井」「ミヤイ」などの記述が現われるのもこの時期からであり、日前宮領を灌漑する水路として定着します。近年の発掘調査の成果からは、宮井用水に沿う形の中世大溝が幾つかの地点で確認されており、宮井用水の延伸と共に、各種の開発が行われたことがわかります。和歌山平野に見られる条里水田はこの頃には完成していたものとみられます。

【主な展示品】高社寄進料田坪付注文（歓喜寺文書、歓喜寺）、紀伊国在庁官人等解案（林家文書、和歌山市立博物館）

第4章：中世終焉と宮井用水—太田城水攻めをめぐる—

羽柴（豊臣）秀吉の紀州攻めの最後に行われた天正13年（1586）の太田城水攻めは、日本三大水攻めの一つとして知られます。太田城水攻めには太田城を取り囲む堤が築かれたと推定されますが、近年その堤に関する発掘調査の成果が認められるようになり、日前宮の北から北西にも堤が認められます。水攻めには紀氏が築いた宮井用水の余水を流す宮井川の水が用いられ、その水流が紀伊における中世の終焉をもたらしました。

【主な展示品】総光寺由来並太田城水責図（総光寺、和歌山市指定文化財）、太田城由来並郷土由緒書（個人蔵）

第5章：紀州に受け継がれた土木技術

第1節：近世紀州流れへと受け継がれた治水・灌漑技術

宮井用水を築いた紀伊の土木技術は、江戸時代へと引き継がれました。紀州流の土木技術は、堅固な堤により蛇行する河川の流路を直線化し、遊水池を干拓して新田を開発し、その用水を遠くから引いた紀州藩の大畑才蔵、井沢弥惣兵衛為永により、紀州藩は大成され、全国各地の河川の改修、湖沼の新田開発などで用

いられました。

【主な展示品】井沢家系図（個人蔵）、大畑家文書（和歌山県指定文化財・個人蔵）

第2部：王権と豪族による開発

紀氏による開発の一方で、王権やそれを支えた豪族の開発も行われました。大溝や池を築いた池溝開発の記事が『日本書紀』『古事記』に認められ、近年では発掘調査によってこれらの池溝開発が裏付けられようとしています。発掘調査成果から見た大和・河内・山背地域の池溝開発について紹介まし。

【主な展示品】

古市大溝出土遺物（羽曳野市）、纏向遺跡出土遺物（桜井市教育委員会）

エピローグ：宮井用水と現代

1700年前にその源流が築かれた宮井用水は、現在も和歌山平野を流れます。春には新苗を潤し、秋には黄金の実りを結ぶ。水害や水不足などの困難に直面しながらも、大地を開く営みは今も続きます。

【主な展示品】

宮井掛耕地図（紀の川左岸水利組合）

【開館時間・休館日】

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日または休日の場合は次の平日）

【入館料】

一般：360円（20名以上団体割引290円）

大学生：220円（20名以上団体割引160円）

*高校生以下、65歳以上、障害者手帳などをお持ちの方及び県内在住の留学生は無料（証明書の提示が必要）

【関連行事】

特別展シンポジウム③「太田城水攻めと宮井用水」

令和4年11月6日（日）13：30～16：30

講演「天正13年太田城水攻めの実像」

新谷和之氏（近畿大学准教授）

報告「発掘調査成果から考える太田城と太田城水攻め」

大木要氏（和歌山市）

報告「太田城水攻め堤と宮井用水」

藤並勝則氏（（公財）和歌山市埋蔵文化財センター）

特別展シンポジウム④「ここまでわかった古代の土木技術」

令和4年11月20日（日）13：30～16：30

講演「古代治水灌漑の土木技術」

小山田宏一氏（大阪府立狭山池博物館館長）

報告「古市大溝の評価をめぐって」

河内一浩氏（日本考古学協会会員）

報告「宮井用水の起源と歴史」

田中元浩（本館）

会場：当館1階ピロティ

定員：特別展シンポジウム③・④：60名

参加費：入館料、特別展シンポジウム予稿集を販売中。

申込：電話または資料館での事前申し込み。（先着順）

受付開始は各回の週間前の金曜日13時～

対象：小学生以上

展示解説

内容：展示解説②：令和4年11月23日（木・祝）13：30～14：30

会場：特別展展示会場

定員：20名

参加費：入館料

申込：電話または資料館での事前申し込み（先着順）受付開始は各回の週間

前の金曜日13：00～